

奨励賞



設計担当者

斉藤智士

建築設計事務所 SAI 工房、大阪府建築士会

一戸建ての住宅／兵庫県淡路市

壤と家

構造 | 木造

建築面積 | 185.52㎡

階数 | 地上2階

延べ面積 | 166.08㎡

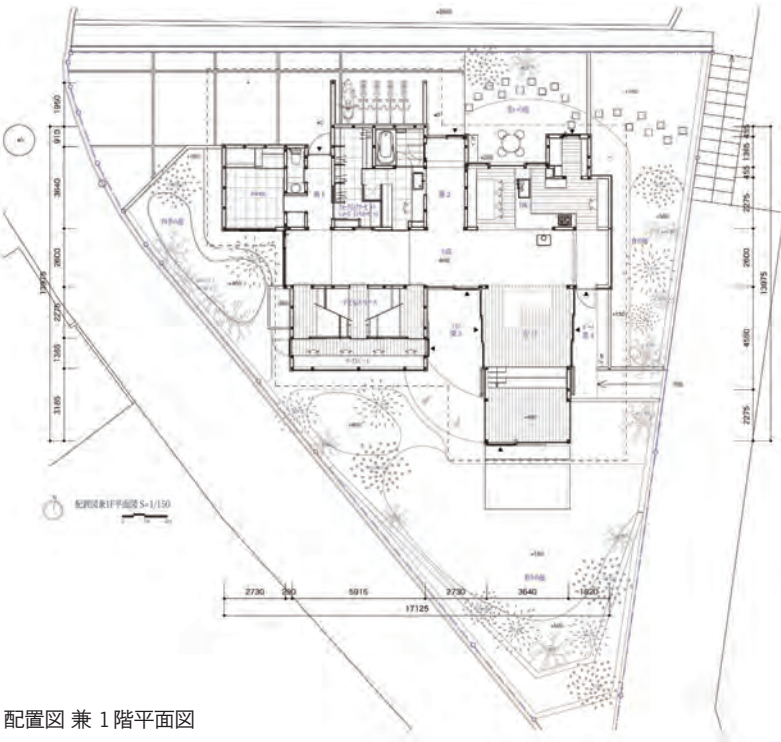
敷地面積 | 528.04㎡

竣工年 | 令和4年



1

2



配置図 兼 1階平面図



3



4

1 東から見る。建物が大地に埋まっているように計画
2 デスクの高さが、外部の床レベルに連続する。土間空間、軒下空間から多様な動線をつくり出す

3 建物中央の長い土間空間。通路であり、リビングの一部、キッチンの一部であり、子供リビングとしても活用。将来的には客席にもなるイメージ

4 リビングからキッチンを見る。いろいろな属性を持つ外部空間と一体的に活用できる構成
写真1~4...山内紀人

選評

かなり外部に対して開放的でありながら妙に居心地の良い住宅である。この計画の特徴は、農地として利用され周囲の道路から1mほど高くなっていた敷地を掘り込み建物を嵌め込むことで、道路レベルが床レベルとなり窓先地盤面が床より1mほど高くなっていることである。

平面構成は天井の高い土間スペースを軸にしてリビングとダイニングキッチン、子供部屋、水回り、個室の5つのスペースが、設計者が

「間」と呼んでいるテラスや土間の枝スペースを挟んで独立してレイアウトされている。その個々のスペースのプランニングも、使い勝手の良さそうなコーナーが随所につくられ、良く練られているのも心地良さにつながっている。しかし特に魅力的なのは、外部と常に関係を持ちながら展開していく個々のスペースのつながりであり、道路から敷地を切り通したアプローチとエントランス、リビング、テラス、ダイニングキッチンが

ながる、軒で覆われ大開口を持ち内部と外部が溶け合った開放的な空間展開であるが、この空間全体が周囲の庭の地面から掘り込まれていることが居心地の良さにつながっている。

敷地と道路との段差が境界となっているだけで扉もなく不安を覚えないでもないが、周辺環境や垣間見た家族のライフスタイルにも適合しているのであろう、快適な住環境を実現している。(菅 順二)